

第57回

神奈川県 美術展

THE 57TH KANAGAWA ART EXHIBITION 2022

全国公募展

第57回神奈川県美術展

The 57th Kanagawa Art Exhibition 2022

1期展 [平面立体]

2022年9月7日(水)～9月18日(日)

2期展 [工芸・書・写真]

2022年9月21日(水)～10月2日(日)

会場

神奈川県民ホールギャラリー

厚木巡回展

2022年10月5日(水)～10月10日(月・祝)

会場

厚木市文化会館 展示室

主催

神奈川県美術展委員会

神奈川県民ホール

神奈川県

共催

(公財)厚木市文化振興財団

協賛

(公財)はまぎん産業文化振興財団

神奈川県文具事務用品団体連合会

(株)ホテル、ニューグランド

松田油絵具(株)

後援

神奈川新聞社・NHK横浜放送局

tvk・FMヨコハマ

応募・入選・入賞者数一覧

	平面	立体	工芸	書	写真	合計
応募	235人 (295作品)	55人 (66作品)	135人 (153作品)	146人 (146作品)	182人 (424作品)	753人 (1,084作品)
入選	81人 (81作品)	29人 (29作品)	78人 (83作品)	86人 (86作品)	63人 (63作品)	337人 (342作品)
内、入賞	8人 (8作品)	4人 (4作品)	10人 (10作品)	10人 (10作品)	9人 (9作品)	41人 (41作品)

第57回 神奈川県美術展 関係者名簿

(2022年9月7日現在)

神奈川県美術展委員会

委員長 磯見 輝夫

副委員長 鈴木 達也

委員

水沢 勉 加藤 良造 沢山 遼

清水美三子 犬野 智宏 富田 康子

船本 芳雲 石坂 雅彦 藤村 里美

圓井 義典 赤池 玲子 薄井 英男

審査員

平面立体

池内 晶子 沢山 遼 清水美三子

糸山 昌夫 吉田 有紀

工芸

加藤 貢介 犬野 智宏 川井 由夏

花里 麻理 三好かがり

書

小川 對山 棚敷 東石 中西 雅舟

名見耶 明 西村 東軒

写真

菊池 哲男 高橋 朗 藤村 里美

圓井 義典 村上 仁一

※入選・入賞数は、2022年7月13日時点で確定した数字です。

ごあいさつ



神奈川県美術展は昭和40年の創設から今年で第57回を迎えます。全国の皆様から熱意あふれる数多くの作品を御出品いただき、今年度は盛大に神奈川県美術展を開催できますことを、主催者の一人として大変喜ばしく思います。また、この美術展の開催に当たり御尽力いただきました関係の皆様方に、心からお礼申し上げます。

この美術展は県内最大級の公募展として、芸術家を志し、研さんを積まれている方から、日々の生活の中で創作活動に取り組まれる愛好家の方々まで幅広く作品を発表する場として、長年にわたり県民の皆様に親しまれてきました。多くの方々が、神奈川の文化芸術の結集とも言えるこの美術展での入賞を契機に、全国、そして世界へと羽ばたかれています。

今回も、全国から数多くの優秀な作品が集まり、平面立体、工芸、書、写真の4部門合わせて1,084点にのぼる応募がありました。

会場には、厳正な審査を経て選ばれた素晴らしい作品の数々が展示されています。御来場の皆様には、作家の方々の豊かな感性、優れた芸術性を存分に味わっていただけるものと思います。

県では、文化芸術の魅力で人を引きつけ、地域のにぎわいをつくり出す、マグネット・カルチャー（マグカル）の取組を推進しており、今年度から新たに「かながわ県民文化祭」を9月から12月にかけて開催します。これは県内各地での文化芸術活動を県が集中的に広報することで、一気に盛り上げていこうという取組です。本美術展はその主な事業の一つであり、この他様々な文化プログラムが全県で行われますので、この機会にぜひ御参加ください。

最後に、このたび御出品いただきました皆様の創作活動へのたゆまぬ努力と情熱に深く敬意を表しますとともに、皆様のますますの御活躍を心からお祈り申し上げます。

令和4年9月7日

神奈川県知事 黒岩祐治

ごあいさつ



神奈川県美術展は、県民文化の向上と芸術家の育成に寄与することを目的に開催する、県内最大規模の公募美術展です。昭和40年から続く公募展として広く県民に親しまれるとともに、新進作家の登竜門として多くの優れた美術家を輩出してまいりました。このことは、ひとえに多くの皆様のご尽力の賜物と心より感謝を申し上げます。

さて、2020年から続くコロナ禍は当美術展にも少なからず影響を及ぼし、感染症対策として応募方法の変更や、WEBを中心とした広報に移行するなど様々な対策を行なながら実施してまいりました。このたびの第57回展に際しましても、万全な対策を講じて開催いたします。本年、全国から寄せられた応募数は、平面立体、工芸、書、写真の全4部門で1,084作品にのぼり、各部門の厳正な審査の結果、全342作品の入賞、入選作品が選ばれました。

本展は、多彩な美術作品を一度にお楽しみいただける絶好の機会です。また、神奈川県民ホールギャラリーの展示空間を活かした大作も見どころの一つです。

さまざまな想いのもと、多くの時間をかけ制作に臨まれ出品された、全ての皆様に敬意を表したいと思います。そして、これからもこの神奈川県美術展において、新たな時代を切り開くような作品と出会えることを祈念いたします。

本展において、厳正かつ丁寧な審査にあられた審査員の皆様と、運営に関し専門的な立場からご助言をいただきました委員の皆様に篤く御礼を申し上げます。

さらに、各賞を賜りました公益財団法人はまぎん産業文化振興財団様、神奈川県文具事務用品団体連合会様、株式会社ホテル、ニューグランド様、松田油絵具株式会社様、公益財団法人厚木市文化振興財団様をはじめ、ご関係の皆様に篤く御礼を申し上げます。

令和4年9月7日

神奈川県美術展委員会委員長 磯見輝夫

目次

1 期展 平面立体

受賞作品目録 平面立体	6
入選作品目録 平面	7
入選作品目録 立体	8
審査講評 平面立体	9
平面立体 受賞作品	10

2 期展 工芸・書・写真

受賞作品目録 工芸・書・写真	20
入選作品目録 工芸・書・写真	21
審査講評 工芸	24
工芸部門 受賞作品	25
審査講評 書	32
書部門 受賞作品	33
審査講評 写真	40
写真部門 受賞作品	41

平面立体

1期展

平面立体

大賞	井手元 咲良	相模原市	庭魘	平面
準大賞	YU XIAOKAI	相模原市	Perfect Lovers	立体
特選	林 銘君	相模原市	引用4	平面
奨励賞	近藤 洋平	滋賀県	mist (partition)	立体
かながわ賞	坂本 優恵	東京都	通りすがり	平面
かながわ賞	平塚 幹男	小田原市	戦争はいや！	立体
県立近代美術館賞	唐杉 庸平	川崎市	on the retina	平面
県議会議長賞	馬場美桜子	東京都	trans	平面
美術奨学会記念賞	太田 絵理	栃木県	綺麗になってどうするの？	平面
美術奨学会記念賞	多々見草太	石川県	connect (Beer case)	立体
はまぎん財団賞	大塚とみ子	横須賀市	宇宙のゆらぎ	平面
マツダ賞	伊藤 夏実	相模原市	プール	平面

※かながわ賞は、神奈川県在住・在学・在勤の出品者の作品を対象とした賞です。

※県立近代美術館賞は、平面立体部門において神奈川県立近代美術館による作品買い上げ賞です。

※県議会議長賞は、平面立体部門において県議会議長より贈られる賞です。

※美術奨学会記念賞は、長年、神奈川県の美術振興に寄与された財団法人神奈川県美術奨学会を記念して創立され、35歳以下を対象とした賞です。

※はまぎん財団賞は、平面立体部門において(公財)はまぎん産業文化振興財団より贈られる賞です。

※マツダ賞は、平面立体部門において松田油絵具(株)より贈られる賞です。

※県立近代美術館賞以降の賞は、創設順に記載しています。

※各部門の大賞・準大賞の略歴は受賞者からの提供によります。

※都道府県および市町村名は出品者の現住所です。

平面

知久 茂雄	記憶の街
土田 明彦	存在意義
近藤 茉由	あめあがり
笛井 弘	Human Trace NO.317
moca。	シンケミガワエキ。
小島 一朗	Kiss チヨコ
久保 勝大	光へ
鍔本 信子	坂道5 早朝の登校
門多 隼也	貝の場所 2022
志柿 ロパ	三田の夕暮れ
藤本 恭子	循環
樺山 詩歩	雌伏
WEN JIAQI	衝撃 II
藤野 七帆	私とどこか
大平 久司	港の花火大会
佐藤 里咲	緑葉
瀬川 寛	田園／由利本荘
オノ・ヨシヒロ	光彩陸離 no.2
美雪	底は見えない
安本倫美子	Mineral Creatures
増田 晴香	MINAMO
齋藤 梨恵	虫めづる姫
石井 寿幸	発電の岸辺
細谷 幸隆	o.S.a = トト
前田 浩余	母星への想い
横山みかさ	sleep.
鶴 英行	赤い樹
鈴木 千賀	Incomplete debugging work.
野畠千絵美	情景
清水 麻実	あたりまえがあたりまえではない
秋葉麻由子	見つめる先に
小河 彩乃	朝旦の会
小熊 杏奈	柄 1
河合 真弓	回遊
何 承霖	白山
shimy	Bahari
松本 菜々	4000 Miles
アオトヒデキ	bowanbowan
松井亜希子	MIRRORS – Nucleus
張 安迪	風立ち、夜の物語

安田 文夫	三密（密集・密接・密会）を断つ
竹村 芳樹	覇者
池田 尚法	僕の目
黄地香の子	庭 / Niwa '22 5
岩瀬 哲夫	苦役
横山 孝司	木の根元
飯村 優介	水象山神 22L
矢田部あみ	集塊
今江ひとみ	雨をかぞえる
柴田 敦	滝
高澤 伸行	Black Rain D
清水美知代	小供の譜 ff
山崎 英子	繋がる記憶
石井 23	人の女の子
吉川 歩	双頭
菊永 紗音	退成
山谷 菜月	これから
後藤 瑞穂	花束を持つ少女
寺崎 麻里	Mother. ~proof~
今村 遥香	乙女心
arche	ぼこぼこアトラス
入戸野珠音	隣の花も芝生もまっかっか
上松 沙彩	TOKYO 2020
渡邊 真弥	燐爛とゆく
佐藤 遥加	休日
森 喜代美	深逐
大久保春霞	鬼灯
江頭 良弘	湖底のオブジェ
ヨハネ菅谷扶美雄	しるし
米蒸 千穂	今日からの日常
田邊 無二	語尽山雲海月情
相沢 克人	若いヤシオウムの肖像、若しくは ツールに立った男子の肖像
広瀬 弘幸	ライン

※掲載は作品番号順です。

立体

Ryuko Kaneko	Dool Wall
渡邊 正崇	赤い狐の夢
岡本 浩幸	漂流するオオカミ
平尾 豪樹	慈悲と SCAR-L
阿部 佳明	腐食する境界
清水とも子	Scenery Stone 結び葉の彩
信英	memory
森 哲弥	女性立像
ヒョーゴコーヨーイチ	影を見つけた光
大久保智子	層
ナカジマミノル	上昇気流
稲垣 千佳	刻刻
深尾 優文	皮膜
森本 諒子	hiding caw
新井 浩太	井井井
笛井 南海	あっ、袋いらないです。
本郷 芳哉	存在の空白－坐留
Choti Amnart	Behind the scene
清水 実	立体フラクタル組木 02
金井 葉子	戯香 –Primavera–
上原 佳代	aru
栗木 道夫	行為への美的判断力
BIAN KA	樂園
内山翔二郎	一秒前の瞬き
山田 優司	2022

今回、筆者が平面立体部門を担当するのはこれで二回目になる。今展においても、審査は比較的順調に進んだと思う。賞候補に該当するような上位の十数点は、複数の審査員で協力して水準の高い作品を選んでいけば比較的順当に決まる。言い換えれば、上位の作品は、質が高く、それでいて稳健な作品で占められていたとも思う。賞に選出された作家たちはその意味で妥当性のある選出であったと感じる。だが、それでよいのだろうかという思いも残る。正直に言えば、もっと驚きたかった。相対的に優秀であることは重要だが、ときにそれが足かせになることもある。

芸術に必要なのは、あらゆる困難な状況を突破するような明晰きわまりない論理の力であるのだと改めて感じる。そのような論理の力は、従来の世界（世情、世俗）へのいっさいの付度を切断した世界において現れる。そのようなものを見てみたいと強く思わされた。

今回、大賞には、井手元咲良さんの《庭魘》^{ていえん}が選出された。植物や樹木が瘴氣を吐き出すようにも見え、風景を覆う見えない力が色彩や自然物の形態に託される。描かれているのは伝統的な庭園の光景だが、（やや安易な連想とはいえ）見えないウイルスの脅威に侵食された現在の社会の雰囲気をそこに読み取るのは困難ではないだろう。井手元さんの絵画の特性は、このような、見えるものが見えないものに侵食される、その変容のプロセスを描くことにあるように思われる。そこから感じられるのは、私たちにとって見慣れたものこそが、もっとも異様なもの、異質なものであり、かつ、私たちはそれにすでにつねに飲み込まれ、侵食されているという感覚である。

準大賞に選出されたYU XIAOKAIさんのベッドを支持体とした立体作品《Perfect Lovers》も、偶然にも同じ感覚を捉えていると感じる。YUさんのベッドは、細胞や自然の微細な形態を思わせる斑紋の増殖、侵食によって覆い尽くされていく。ベッドという存在には、当然、私たちの身体性や性的活動が隠

喻として包含されている。その表面が、変容するプロセスによって侵食され、別のものへと解体されていく。そこには、自分のものであるはずの身体への異和、拒絶すら込められているようにも感じる。

特選に選出された林銘君さんの《引用4》も洗練された画面をもつ。絵画内絵画が、その内側に描かれたなめくじのリズミカルな反復によって輪唱のように反響し、連続していく。視覚的な心地よさと不穏さが共存しながら、画面を過度に複雑化することなく、うまくまとめていると感じる。

大賞に選ばれた井手元さんと準大賞に選ばれたYUさんの作品は、もっとも身近な場所こそが異郷であり、異界であるという逆説を描くことにおいて通じている。二人がともに、22歳と24歳の若い作家であること、この感覚と深く関わっているのかもしれない。それはわからない。はっきりしていることは、私たちの身体を優しく包み込むような帰るべき場所をこれらの作品ははっきりと異郷化しているということだ。

さまざまな体制、制度が機能不全を起こし、法と倫理が崩壊し、国家間の力学的関係が流動的に変わり、もはや帰るべき場所が失われてしまったように見える緊迫した現在の状況のなかで芸術を続けること。こうした状況のなかでは、若い人たちの芸術は、ほかの世代とは異なる意味をもってしまうだろう。それは、それでもなお、作品がつくられ、発表され続けることの意味、必然性を社会に対して問うことを意味するからだ。

それは逆に、作品自体に、それを成立させるところの内的論理や必然性が厳しく問われることもあるかもしれない。作品を安易にはつくりだすことのできない時代であるからこそ、あらゆる安易さを排した、厳しさに満ちた作品も生まれる。そのように願っている。



大賞

庭魘

井手元 咲良

油彩・キャンバス
162×227.3cm

[略歴]

2000年 広島県に生まれる。現在神奈川県在住。
2018年 女子美術大学芸術学部洋画専攻 入学
2022年 卒業
2022年 女子美術大学美術研究科美術専攻
博士前期課程洋画 入学 在学中

[展示]

〈個展〉

2021年 「SAKURA展」クレイトンベイホテル、広島

〈グループ展〉

2021年 「コンペで選ばれた者たちが展示しますので来てください。(展)」アーツ
千代田3331ギャラリー、東京

2020年 「あつまったく！」インターート7、東京

2019年 「衣食住展」デザインフェスタギャラリー、東京

2019年 「女子力展」デザインフェスタギャラリー、東京

2018年 「第54回神奈川県美術展」入選 神奈川県民ホールギャラリー、神奈川

[受賞歴]

2022年 女子美術大学 卒業制作 卒業制作賞

2021年 第42期国際瀧富士美術賞 グランプリ、優秀賞

2020年 女子美術大学洋画専攻 コンペティション 熊谷直人賞

2019年 女子美術大学洋画専攻 2年次進級制作 進級制作賞

2019年 「アートオリンピア2019」準佳作



準大賞

Perfect Lovers

YU XIAOKAI

ベッド・寝具
55×150×280cm

[略歴]

1998年6月 中国浙江省生まれ
2022年4月 女子美術大学 博士前期課程洋画領域在籍

[展示]

2021年 漆彩東方—第四届上海漆画展（上海中心大厦B1）
2020年 第七届杭州青年美术新秀选拔赛（杭州画院美术馆）
2019年 第三届宝龙艺术大奖「美丽家园」作品征集展（上海宝龙美术馆）
2019年 广东省第六届漆画作品展（广东省肇庆美术馆）
2019年 第十届上海美术大展（上海中华艺术宫）

[受賞歴]

2020年 第11届中国高校美术作品学年展 大学组 三等奖
2019年 第三届宝龙艺术大奖「美丽家园」作品征集展 優秀賞
2017年 珍丽年华第十届全国美育教学成果展 一等奖
2016年 珍丽年华第九届全国美育教学成果展 一等奖



特選

引用4

林 銘君

日本画

155×155cm

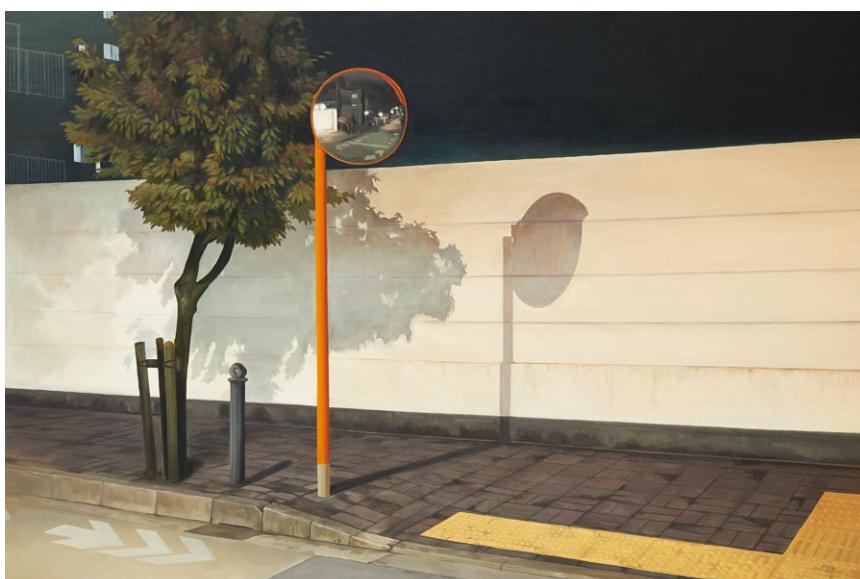


奨励賞

mist (partition)

近藤 洋平

ガラスミラー・木・テーブル・椅子
150×150×150cm



かながわ賞

通りすがり

坂本 優恵

キャンバス
130×194cm

平面立体



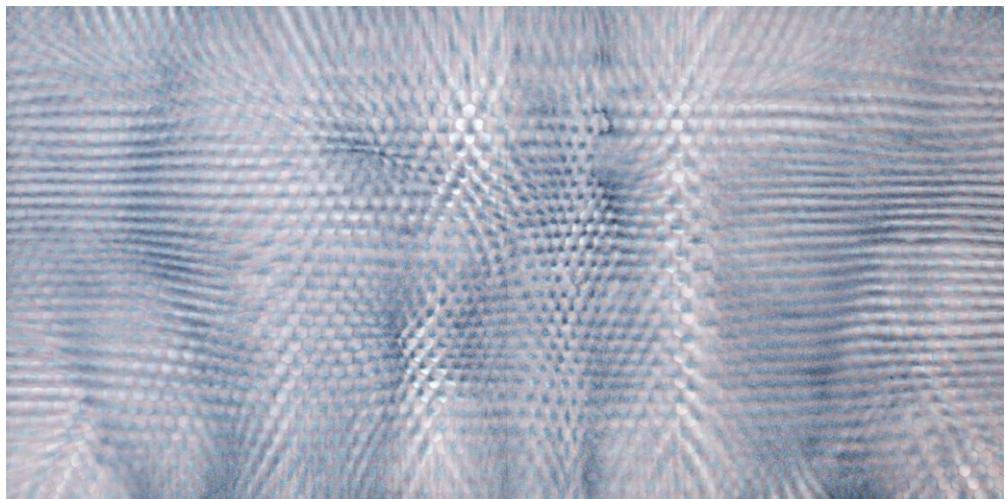
かながわ賞

戦争はいや！

平塚 幹男

木（くす）

250×170×25cm



県立近代美術館賞

on the retina

唐杉 庸平

インク・布・木製パネル

100×200cm



県議会議長賞

trans

馬場 美桜子

油彩・キャンバス

170×200cm



美術奨学会記念賞

綺麗になってどうするの?

太田 紘理

いづみ紙・リトグラフ

100×81.8cm

平面立体



美術獎学会記念賞

connect (Beer case)

多々見 草太

鉄・銅・リベット

120×100×100cm

はまぎん財団賞

宇宙のゆらぎ

大塚 とみ子

白水彩紙

194×130.3cm





マツダ賞

プール

伊藤 夏実

キャンバス・油彩

227.3×181.8cm

工芸・書・写真

2期展

受賞作品目録

工芸

大賞	小野坂葉子	相模原市	Sight	染織
準大賞	馬 莉	東京都	薔の期待	漆
特選	安齊まりな	横浜市	忘れられた地	縮絨ウールに刺繡
奨励賞	内海紗英子	大阪府	心	漆
かながわ賞	森 寛恵	相模原市	小宇宙	刺繡
かながわ賞	姜 懿山	相模原市	繭 #5	ガラス
美術奨学会記念賞	金久 琴美	横浜市	つぐむ	陶
美術奨学会記念賞	原田向日葵	東京都	入浴中	ガラス
ホテルニューグランド賞	米山千英子	横浜市	Friends	陶
厚木市文化振興財団賞	篠崎 敦	厚木市	蒸気機関車	木材工

書

大賞	田中 紫水	東京都	西行のうた
準大賞	栗原 紫翠	東京都	李賀詩
特選	茅 幸子	相模原市	北原白秋の歌
奨励賞	富塚 香峻	東京都	李商隱 南朝
かながわ賞	大林 野歩	相模原市	ゆらめき
かながわ賞	津田 美好	葉山町	良寛
美術奨学会記念賞	小山 蘇龍	川崎市	王世貞詩一節
美術奨学会記念賞	角田 翠皎	横浜市	松虫
県文具事務用品団体連合会賞	古河 裕子	横浜市	小倉和歌
厚木市文化振興財団賞	紙崎 玉瀬	厚木市	祖詠詩

写真

大賞	nao.	横浜市	Sustainable Yokohama	
準大賞	伊部 廣一	横浜市	鋼管壁景象	3枚組
特選	堀 千晃	藤沢市	私のお父さん	2枚組
奨励賞	伊海田卓男	東京都	夕刻の山並み	
奨励賞	やまもとみえこ	川崎市	冬の川辺を歩いて	3枚組
かながわ賞	三村 信昭	横浜市	Dreams	3枚組
かながわ賞	牛木 実	横須賀市	ネコババ	
美術奨学会記念賞	Qen hazuki	横須賀市	かたちとは	3枚組
美術奨学会記念賞	坂東正沙子	大阪府	それから	

※かながわ賞は、神奈川県在住・在学・在勤の出品者の作品を対象とした賞です。

※美術奨学会記念賞は、長年、神奈川県の美術振興に寄与された財団法人神奈川県美術奨学会を記念して創立され、35歳以下を対象とした賞です。

※ホテルニューグランド賞は、工芸部門において(株)ホテル、ニューグランドより贈られる賞です。

※厚木市文化振興財団賞は、厚木市在住の出品者の作品を対象とした賞です。

※県文具事務用品団体連合会賞は、書部門において神奈川県文具事務用品団体連合会より贈られる賞です。

※各部門の大賞・準大賞の略歴は受賞者からの提供によります。

※都道府県および市町村名は出品者の現住所です。

工芸

大島 規男	人間缶詰	モザイク
鈴野正次郎	秋月	木材工
西森 洋子	For Mayuna	織
陶樹	衣器X	陶
阪本由美子	天翔り上へ上へ	染織
江成 光行	孔雀	瓢箪アート
管 静怡	「城、光、ビル、人々」	染織
宮本 知三	瑠璃觀音菩薩立像	木彫
深味よし江	花のアルバムキルト	パッチワークキルト
浜田 邦子	le calme	グラスリッシュ
北浦 雄大	円環	漆
室賀 奏子	1/5	陶
金 正和	花びん	陶
宍倉 龍太	月蝕／兜.前立	兜 前立て
田嶋 広樹	やさしさ	漆
鈴木 貴久	六角積堆器	陶
相場 洋子	ブーケ	ガラスピーブ
勢井浩二郎	R0>1	陶
長谷川天幸	截金細工 飾り重箱	截金
上坂 涼乃	茹玉偶子鍋	金工
松本 剛一	楠の実	木材工
ひら子	斜陽	切り絵
松本宗一郎	噴昂	ガラス
山田 公也	白流水紋大皿	陶
堀内 裕	汀	ガラス
石河美和子	希望	染織
山内 惟果	舞い降りる麒麟	漆
鈴木 典子	徒然	陶
寺尾 光葉	寺尾光葉5の2乗	ガラス
長澤 祥子	ドロップ	ガラス
安部 里香	縫取り織亜麻布「方丈の庭」	染織
安部 里香	縫取り織着物「修羅」	染織
中島 綾子	a tempo	七宝
劉 蘭潔	夏虫	陶
康子	山法師から生まれた	陶
佐々木らん	四肢を食む	ガラス
松井 輝子	マスカレードM	テキスタイル
栗山 春恵	希望	七宝
壁谷庄太郎	さあ～とびだすわ (輪)	陶

藤工房	杉浮造りハイツール(ブラック) 木材工	
藤工房	杉浮造りツール(ブラック) 木材工	
唐梨子あやか	星影	ガラス
小島 昭博	ふくらぐ	ガラス
細田 のな	群青	ガラス
岸 明里	まるめろ	陶
岸 明里	しらぬい	陶
村越 敬太	遺跡土器	陶
津倉 知里	大切なものを抱きしめて生きる	ガラス
篠原 祐介	サックス	皮革
森岡由記子	千手觀音	人形
輿石 孝志	New World Order	彫刻切り絵
楊 夢夢	モイラ 運命の三女神	手刺繍
大塚 國男	宙-SORA	陶
胡桃 志歩	仄白	陶
正木絵里子	青流波円文杯	ガラス
彦坂 朋乃	融解	ガラス
下平久美子	はなゑみ	陶
下平久美子	綵毬	陶
和田 悠	雪化粧	陶
永井 優里	リツ	陶
今閑 華	内と外	陶
上原田 梓	include	ガラス
千葉ひろみ	家族の肖像 I.II.III	陶
大橋 亜衣	Innocent	陶
戸叶 恵介	青藍彩雲龍文塔香炉	陶
橘川 和男	壺「行雲流水」	木漆工芸
小酒井基絃	ニワトリヒヨコたち	織物
萌夢♡	Ceramic parade	陶
古坊 聖子	遺跡と戯れ	陶
藤田貴世美	布年輪-春夏秋冬-	
	「ねんりんピックかながわ2022」によせて	
	パッチワークキルト	
石橋 伸一	アラジンの魔法の瓢箪	漆
石橋 伸一	流星	漆
アベ マサカネ	nekropolis	陶

※掲載は作品番号順です。

書

森 俊行	初春
片岡 雪燐	温庭筠詩
小林 史青	伊丹三樹彦の句
稻垣 奏庭	赤彦の歌
上田 昌子	千載和歌集
永吉 仁	徳不孤必有鄰
飯塚 華光	臨 香紙切
中西 晃雪	めぐりゆかば
早坂 天岑	蘇軾「水調歌頭」詞
庭山 香澄	春霞
松浦 敏恵	宿雲門寺閣
竹内 玉舟	臨・曼殊院古今集
鶴賀 一漣	臨・関戸本古今集
富田 祐二	落宿半遙城
井上 章子	閑雅な食慾
岩崎 翔星	種田山頭火の句
鈴木 瑞芳	西空の
伊藤 湘理	魔法の器
上村 泊舟	送友人
兎澤 羊舟	歸醴溪
村本 裕香	凜たる呼聲
飯島 静翠	山居同沖子溫韻其九
三橋 和泉	柳宗元詩 南礪中題
田中 浄笙	天道蟲
松本佳乃子	兗州の城楼に登る
水川 雙竹	送君江上去
川合 弘	少年
静 圭頬	登辨覺寺
中川 蘇雪	烏夜啼
阿部 茜蝶	鈍色は冬
久村 拓司	紫苑の花咲く
小林美知子	近藤福代のうた
岡田 明子	水玉旅情
高橋 聖陽	月の舞
吉村 明子	里の秋
比留川秀水	出井洋子の歌
深沢 和子	夕暮れに
笠原 啓子	星めぐりの歌
杉山 和子	幻想

川上真理子	尊光
児玉 真理	八月の標
竹内絵里子	古民家カフェでのひととき
石塚 紗知	ホノルルマラソンをあきらめて
吉留 真理	朝のランニング
古平 遊季	蓮二句を
高橋 早苗	神の住む森で
篠 能里子	黄土の鮮紅
中山 政子	秩父路便り
平澤 紂	お盆楽しや
日守 錬	午後の陽射し
曾根正知代	儂い結晶
柳原 九一	爪痕 正信念仏偈
鳥塚 潤永	凡の至福
大山 蘭翠	意志もちて
渡邊 蘭紅	有明の月
長沼 堯花	登蒲澗寺後二巖
前橋 蒼峻	山中晚帰
牛山 香流	愛蓮説
黒沢 玲香	題玄武禪師屋壁
河田 玲洗	わが宿に
猪野 光舟	飲酒全其神
中田 早苗	柔弱者生之幹
下門 芳子	月影
鳥海 花春	月
氏平 堯惠	静林寺
片岡 稲處	康海詩 観禾
千村 恵子	古今和歌集より2首 (緩やかな春の訪れを祈って)
岡野 堯渚	李遠「送人入蜀」
古矢 春暄	許渾詩「七里灘」
青樹 堯瑩	仲夏江陰官舍寄裴明府 李嘉祐
淺見 玲湖	潁州初別子由二首
相根 恒舟	三十六人集家集
安達 晴子	万葉集
小林 真静	万葉集
岩浪 由美	よする波
河又世津子	あしひきの

※掲載は作品番号順です。

写真

古山 豊	白黒の競演	
三谷 享	空き缶リサイクル	3枚組
清水 隼雄	駆け抜けた日々	3枚組
土田圭之助	幻影	
木村 宣夫	子安浜	
澤地 弘	銀座の二人	
小石川良一	afternoon	
赤澤 恭一	あらそい	
中井 麻美	日々これよき日	3枚組
小島 輝夫	尾瀬、夏の彩り	3枚組
大川 賢一	桃源郷	
金 正和	振り返らずにはいられない ビルケナウ収容所	
坪内 秀三	コロナ禍の秋	
竹端 築	天空の河	
岡本 洋三	和傘のアート	
Naoki Shimakawa	欲求と衝動 2	
勢井浩二郎	family affair 03	3枚組
中村 佳綸	color	3枚組
小杉美千代	Shadow	3枚組
尾身 博之	運命の大きな流れ西に行き嫡流一人 東へと漕ぐ(『平家物語』「維盛入水」より)	
稻次 正知	夏の日の午睡	3枚組
鈴木 真人	日除けだんだら	
鳴海 廣治	スクランブル交差点	
片柳 拓子	Involve	3枚組
杉本 信二	S	
福井 宏樹	同化	
コムラマイ	Kepler-452b	
あゆむ	映る夏	
石田省三郎	Nights,Walking	3枚組
立川 明	闇いは続いている	
セキナオコ	Tracing	3枚組
神田 晉朗	勿忘のモニュメント	3枚組
清水 進	祭り人	
王家明	Empty classroom	2枚組
五十嵐 猛	白骨の森	3枚組
金井 純雄	約束	
末永 海	永遠に…	

※掲載は作品番号順です。

yasuhito ōike	unblinded	3枚組
鈴木ちあき	ステップ	
土方 保造	富士と共に生きる	
MA YUE	棲息地	3枚組
最上ぬい子	モデルはじいじ	
加藤 豪子	歩く人	
長尾 勝利	トンネル模様	3枚組
伊藤 敏児	追憶	3枚組
相澤 演義	板目の詩	3枚組
津田 祥夫	はずれた予報	2枚組
乾 清一	平和な頃のロシアの若者達	3枚組
野田 光治	ハーモニー	
小島 満男	旅立	
藤本 寿春	ドンドン焼キ	3枚組
REIKO	構造の協奏	3枚組
右近 良孝	桜を愛でる	
荒川 拓大	余燼(鎌倉)	3枚組

本年度の工芸部門への応募は135人で、1人3作品までのエントリーが可能なため、審査会場に並んだのは全部で153作品でした。

審査は、まず、入選作品83作品を投票で選出し、その後改めて賞候補となる作品を投票で絞り込み、再びの投票によって大賞、準大賞を選考し、その他のお賞については、受賞条件を考慮しながら投票および合議で決定しました。

審査にあたって審査員が注目したのは、作者の表現したいことが、素材や技法としっかり噛み合って見えるかどうかです。そのため、審査員どうしもそれぞれの専門知識の共有を心がけて意見交換を活発に行いました。以下に、各受賞作品について、審査員が着目した点を紹介します。

大賞を受賞した小野坂葉子さんの染織作品《Sight》は、街の風景や家の中と思われる画像を布に転写して裁断し、それを横糸に画像を再構成しています。絹糸がつくり出す画像のノイズは、リアルとヴァーチャルを行き交う現代特有の実体感の危うさを表しています。写真と染織とのマッチングや、織りの構造に現代を表象させた発想が独創的で、自由度や柔軟性もあり、今後の展開も広がっていくだろうと高く評価されました。

準大賞の馬莉さんの漆の作品《薔の期待》は、塗りの確実な技術が、人物像を使った当世風の表現を際立せています。水面を思わせる漆黒の円盤の中心に、少女が踵を上げて立っています。人物と円盤との大きさのバランスや、深みを感じさせる艶やかな漆の質感が、思春期の心の奥を表現しています。

特選を受賞した安齊まりなさんの《忘れられた地》は、フェルトの質感が懐かしさを感じさせる一方で、アースカラーで統一した色調がミステリアスです。ニードルワークでフェルトを圧縮し、茶や緑で部分を染め、刺繡糸でステッチをほどこしています。ステッチをたどると、動物のような陸地のような形が見えてきます。審査員も思わず想像力を掻き立てられ、見知らぬ土地に思いを馳せました。

奨励賞は内海紗英子さんの《心》です。作品名から心臓の形と思われますが、制作工程を発泡スチ

ロールの原形から蒔絵装飾にいたるまで露わにしています。蒔絵が緻密で精度が高くて自ずと見所になるため、過程を見せる必要がないとの意見や、制作中の「心」の行方を表現したのだろうとの意見が出ました。支柱や台座の必要性も話題になりました。技術や創意を評価するゆえの指摘となりました。

県内在住・在学・在勤者を対象とするかながわ賞を受賞したのは、森寛恵さんと姜懿山さんです。森さんの《小宇宙》は、色とりどりの絹糸で暗黒の宇宙に浮かぶ星雲を表現しています。小さなサイズに込められたスケール感と丁寧な刺繡が評価されました。

姜さんの《繭 #5》は、ガラスを発泡させて繭に見立てています。発泡ガラスは神代良明さんが第一人者として知られていますが、この新しい手法への挑戦と今後を期待しての選出となりました。

35歳以下を対象とする美術奨学会記念賞の受賞者は金久琴美さんと原田向日葵さんです。金久さんの陶芸作品《つぐむ》は、貝殻を連想させる小さなパーツを無数に密集させた造形で、各パーツのコロンとした形状やそれらの重なり具合が巧妙です。内なる意志を表現したのか、静かな迫力があります。

原田さんのガラス作品《入浴中》は、形の捉え方や顔の描写がシニカルなティストを感じさせます。イラスト的とも言える感性をキルンキャストで立体に変換した造形力が評価されました。

ホテルニューグランド賞は、米山千英子さんの陶芸作品《Friends》です。花器をテーマに、黑白のストライプを共通ルールとして、粘土という比較的融通の利く素材で、造形のバリエーションを追求しました。

厚木在住者を対象とする厚木市文化振興財団賞に選出されたのが篠崎敦さんの木工による《蒸気機関車》です。メカニカルな構造への愛着を細部にいたるまで貫いた完成度の高さが評価されました。

工芸の制作は、材料や道具と向き合う地道な時間が大半で、辛抱や忍耐が求められると思いますが、受賞作をはじめとする入選作からは、根気、夢中、楽しさ、丁寧さが伝わり、そのことが作品を花開かせていると思いました。



大賞

Sight

小野坂 葉子

ポリエステル糸・綿糸
82×112×0.5cm

[略歴]

1998年 東京生まれ
2022年 多摩美術大学美術学部生産デザイン学科テキスタイルデザイン専攻 卒業
2022年～ 多摩美術大学大学院美術研究科博士前期課程デザイン専攻
テキスタイルデザイン 在籍中

[受賞歴]

2022年 多摩美術大学生産デザイン学科テキスタイルデザイン専攻
卒業制作優秀作品2022
2021年 第30回 紙わざ大賞 入選

[展覧会]

2022年 多摩美術大学美術学部生産デザイン学科テキスタイルデザイン専攻
卒業・修了制作展（スパイラルガーデン）
2021年 「医術と美術 —テキスタイルを通じたデザインと医療現場の対話—」
(多摩美術大学 TUB)



準大賞

蓄の期待

馬 莉

漆・麻布・木・合板・螺鈿
17×80×80cm

【略歴】

1980年 中国河北省生まれ
1999年～2003年 清華大学美術学院工芸科漆芸専攻 卒業
2003年～2006年 清華大学美術学院大学院工芸科漆芸専攻 修了
現在 東京芸術大学大学院美術研究科漆芸専攻 博士後期課程在籍
北京科技大学機械工程学院 常勤講師

【入選歴】

2019年 “煉”第5回“薪技艺”国际工芸美術展 入選
2019年 2019湖北国际漆芸トリエンナーレ 入選
2018年 中国現代美術工芸ビエンナーレ2018北京 入選
2018年 福州国际漆芸ビエンナーレ 入選
2017年 “靈”第3回“薪技艺”国际青年工芸美術展 入選
2017年 NOT SO BLACK – Tokyo-Chiang Mai Contemporary Lacquer Art Exhibition
2017年 “国际漆展・石川2017” 入選
2016年 中国現代美術工芸ビエンナーレ 入選
2013年 粲漆・咏怀——2013年中国女性漆芸家作品展 入選
2012年 中国現代美術工芸ビエンナーレ 入選
2011年 2011年中国(廈門)漆画展 入選

2011年 2011中国漆画藝術精品展 入選

2010年 「日用即道」－2010年国際漆芸展 入選

2010年 上海国際博覧会中国美術展 入選

2009年 第11回中国美術展 入選

2005年 「从河姆渡走来」－2005年中国現代漆芸展 入選

2005年 韓国大邱大学校国際招待展

2004年 第10回中国美術展 入選

【受賞歴】

2010年 第3回国際現代漆芸展 優秀作品賞受賞

2010年 「从河姆渡走来」 -

2007年 第2回中国漆画展 優秀作品賞受賞

2005年 廈門2005年中国漆画展「中国漆画フェニックス賞」銅賞受賞

【作品收藏】

2010年 中国美術館

2009年 廈門美術館

2007年 広州芸術博物院

2004年 廈門市人民政府



特選

忘れられた地

安齊 まりな

羊毛・糸・染料

115×135×1cm



奨励賞

心

内海 紗英子

漆・発泡スチロール・夜光貝

金粉・アクリル棒

45×30×21cm

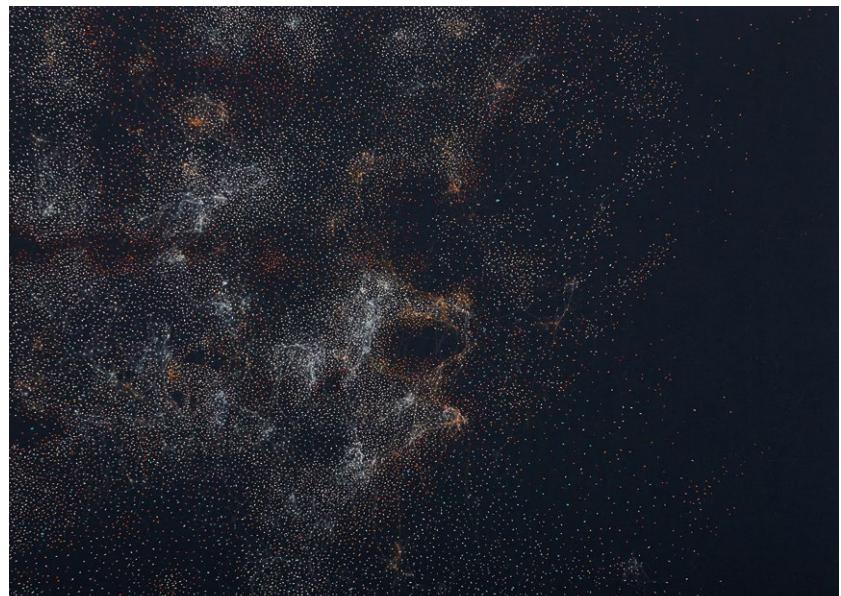
かながわ賞

小宇宙

森 寛恵

綿布・絹糸・キルト綿

24×33×1cm



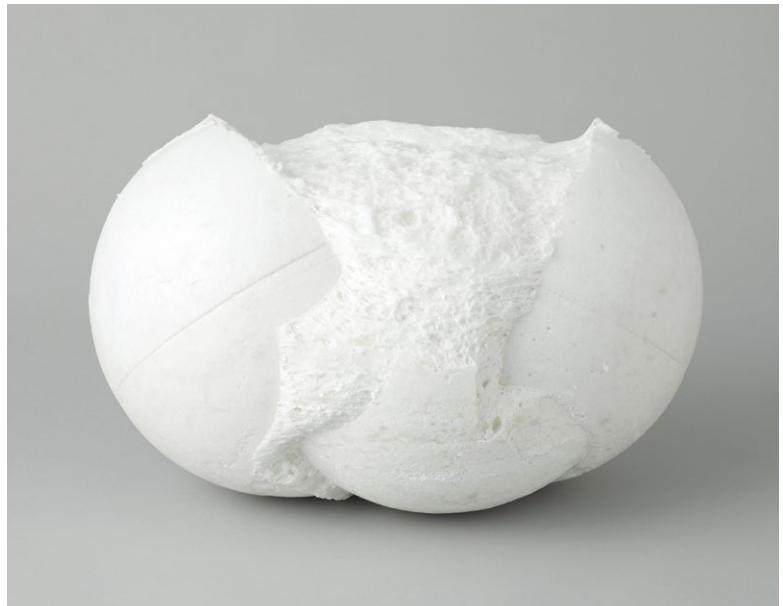
かながわ賞

繭 #5

姜 懿山

ガラス

30×37×30cm



美術獎学会記念賞

つぐむ

金久 琴美

陶

20×24×21cm





美術獎学会記念賞

入浴中

原田 向日葵

ガラス

27×31×18cm



ホテルニューグランド賞

Friends

米山 千英子

陶

38×16×16cm



厚木市文化振興財団賞

蒸気機関車

篠崎 敦

木

17×60×12cm

本年は、全国公募展になって6回目。コロナウイルス感染流行により一昨年開催されなかった影響か、昨年はそれ以前に比べて応募数が少し増えたが、本年は、146作品と元に戻ったようである。そこで、審査員の間で話題となったのは、県単位の展覧会で、これほど賞金をしっかりと用意しているところは稀であり、もっと応募数が増えて良いはずということである。これには公募する際につてもっと周知の工夫をする必要があるのではという意見が多くあった。賞金のある全国的な公募展であることをしっかりと知らせるることは重要であり、出品者も増えることだろう。今回の受賞者は、神奈川県と東京都の出品者であった。

本年の入賞作品の目安の数は、90作品ほど。その前後の作品は、五人の審査員の点数をあわせて13点から14点を獲得した作品であった。そこで、14点獲得の21作品を全員で見直して、数点を入賞保留とし、13点を獲得していた22作品も見直し、入賞候補として数点を選んだ。そしてそれらの作品を較べて、入賞に値するかを審査員が率直な意見を交わし数作品の入れ替えをし、最終的に86作品を入選作品として選んだ。

特別賞の選定には、第一次審査で19点以上を獲得した10作品の中から、仮名・漢字・近代詩文書の分野別に、順位をつけてそれらの上位作品をさらに較べ審査員の意見を反映させて大賞を決定した。多くの作品が高得点を獲得した仮名作品にとっては、厳しいことになった。

また、優秀な作品でありながら、明らかな誤字と判断できるものもあり、残念ながら落選した作品もある。篆書や草書、変体仮名の字形と書き順、墨の飛び跳ねか書いたものなどの曖昧で不自然なものもあり、作品としての単純な間違いがないかを確認することを実践してほしいと思う。

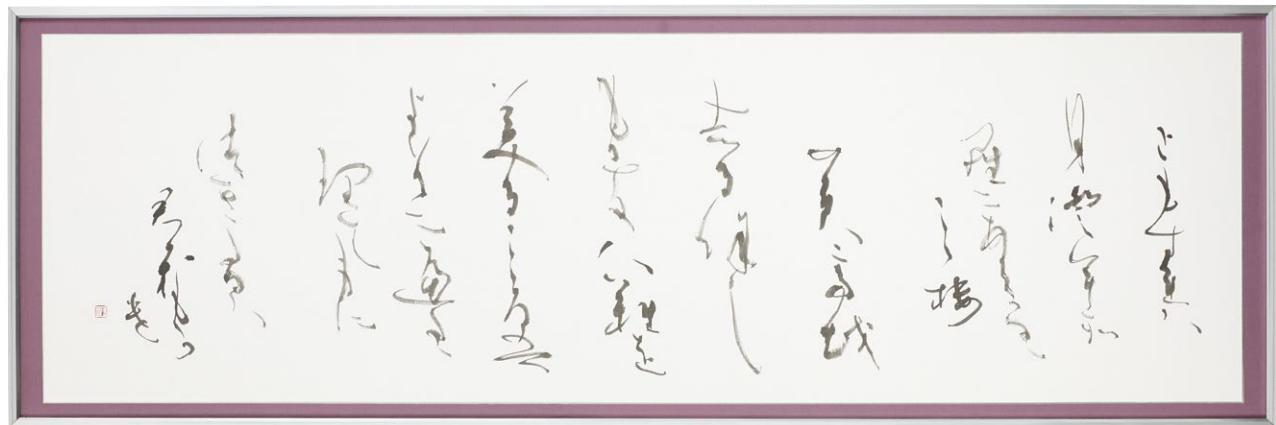
大賞となった田中紫水氏の仮名作品は、全体の構成の変化とまとまりの美しさが際立っている。それは、しっかりとした線で引かれていること、行の流れが無理なく全体の流れも自然で、行間がすっきり

と美しく響き合っているからである。ちなみに東京都からの出品者である。

準大賞の栗原紫翠氏の漢字は最初から最後まで安定したリズムで一字一字が構成されており、漢字作品の中では派手さはないが存在感が際立っていた。字間や行間の静かさも魅力的である。特選には茅幸子氏の近代詩文書が選ばれたが、数多い中ではもっとも文章がすっきりと流れしており、近代詩文書の近年のデフォルメ協調の傾向の中では紙の白さと文字のバランスに優れている。二行目の「螢一つ」を一行目に溶け込ませる工夫は古筆等にも見えるが、現代の書において見事にうまく処理している。こうした表現は、近代詩文書の可能性を示していると思われる。

奨励賞は、富塚香峻氏の漢字行草体の四行書、自在に筆が動き抑揚のリズムが心地よい。若い人を対象とする美術奨学会記念賞は、小山蘇龍氏、角田翠皎氏の二人が選ばれている。小山蘇龍氏は、篆書作品で若さを感じさせる筆線で魅力的であるが行間がスッキリとすれば、高得点が得られたであろう。角田翠皎氏の仮名は、全体の納め方は見事であるが、さらに線に落ち着きを感じさせる必要もあるだろう。

かながわ賞は、大林野歩氏と津田美好氏が選ばれた。大林野歩氏の近代詩文書は、勢いに溢れた筆線であるが、どこかにメリハリがあるとさらによくなるであろう。津田美好氏の仮名作品はよくまとまっており、高得点でもあったが、中程七行目にもう一步のインパクトがほしかった。県文具事務用品団体連合会賞は、古河裕子氏の色紙十二枚の見事な仮名作品で、どの色紙も充実したものであるが、全体を通してもう少し抑揚が欲しかった。表具次第でさらに印象がアップするだろう。厚木市文化振興財団賞は、紙崎玉瀬氏の漢字作品で、筆がよく動いてリズムを感じさせる。もう少し、構成のまとまりがあるとさらに良かったと思う。



大賞

西行のうた

田中 紫水

61×182cm

〔略歴〕

1986年生まれ 滋賀県出身 東京都在住

2011年 大東文化大学大学院修了

読売書法会 幹事

藍笱会 理事

文部科学省後援書写技能検定 東京都審査員依嘱

魚臺下宵網
驚禽高竦煙翅
潭鏡涓蛟深浮珠
魚戲風松瑤匣
瑟隱星錦城
使柳綴長縹帶
草短山吹石根綠
醉竈首抽丹瑣
漂旋弄天影
古橋牽雲脣
趁月藏恨紅
眉雲香暮
劍光交平
西井闌東列
千肆列從威
紀人好學鵠
夫子紫翠

準大賞

李賀詩
栗原 紫翠

182×61cm

[略歴]
1973年 三重県伊賀市出身
大東文化大学卒業
読売書法展特選(2回)
日展入選(2021年)



特選

北原白秋の歌

茅 幸子

152×73cm

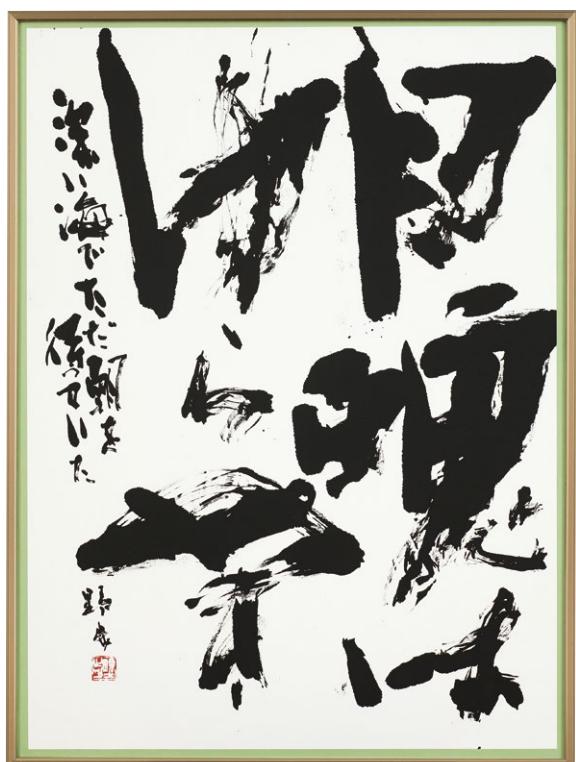


奨励賞

李商隱 南朝

富塚 香峻

182×61cm

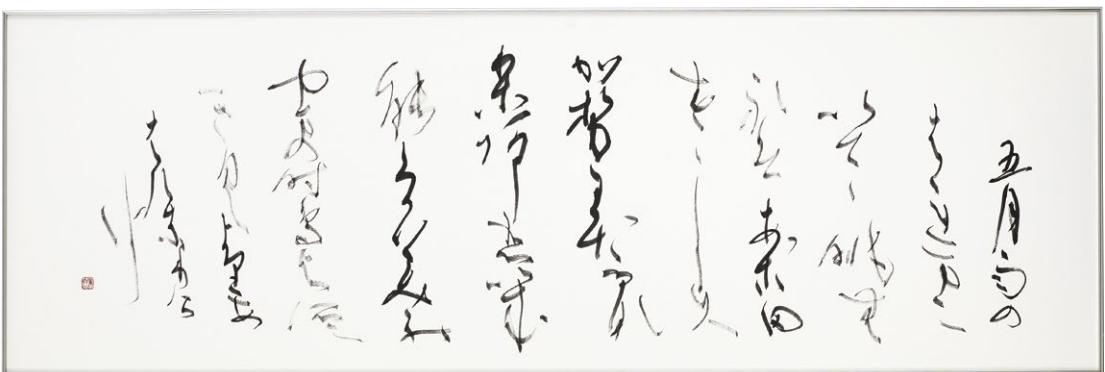


かながわ賞

ゆらめき

大林 野歩

121×91cm



かながわ賞

良寛

津田 美好

61×182cm

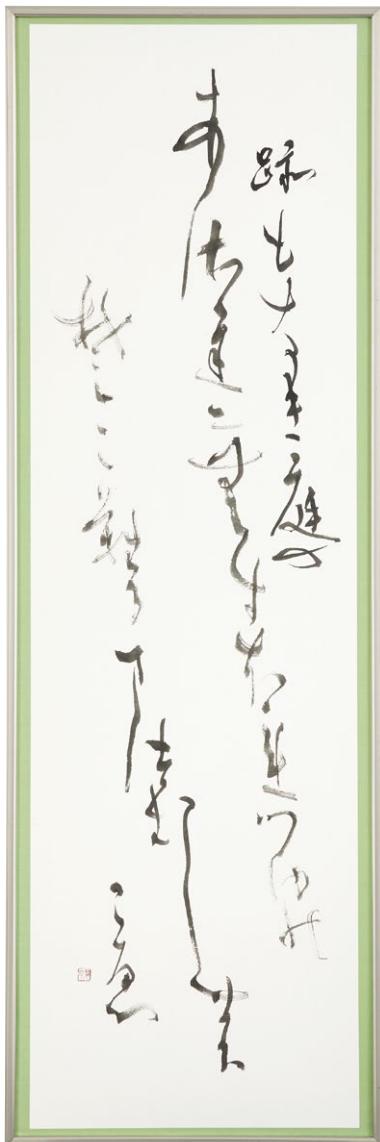


美術奨学会記念賞

王世貞詩一節

小山 蘇龍

182×61cm



美術獎学会記念賞

松虫

角田 翠皎

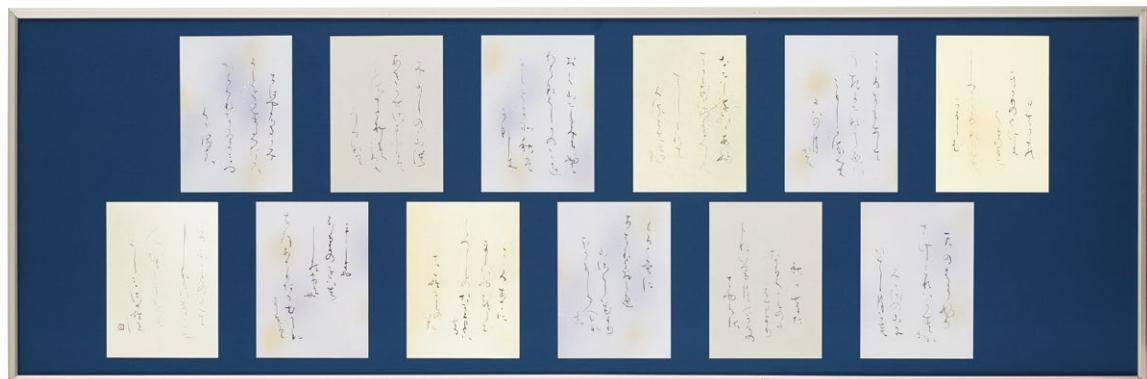
182×61cm

県文具事務用品団体連合会賞

小倉和歌

古河 裕子

61×182cm





厚木市文化振興財団賞

祖詠詩

紙崎 玉瀬

61×182cm

今回は昨年に比べて、出品数が少なくなったようですが、2020年から始まっているコロナ禍の影響で写真を撮る環境に変化があったと考えられ、スナップ写真や風景写真など屋外で撮影された写真が減った一方で、パソコンなどで丁寧にマニピュレーション（加工）した作品が目立ちました。

大賞となったnao.さんの《Sustainable Yokohama》は、当初から目立っていたわけではなく、選考の途中からじわじわとその存在感が増していく印象がありました。審査員が全員一致というわけではありませんでしたが、結果的には一同が納得し選出されました。一見、緑深い森の風景のように見えますが、横浜の風景をベースに丁寧にコラージュされた作品でした。第一印象はファンタジー的にみえますが、都市と自然、破壊と再生をテーマとして感じさせるもので、現代社会のもつ問題点、横浜という街の持つ歴史も踏まえたものであると評価いたしました。

準大賞の伊部慶一さんの《鋼管壁景観》は、大賞の作品とはまた異なった魅力のある作品でした。抽象画を想起させるような色彩の豊かな作品で、おそらく加工はほとんどされずストレートに光景を切りとったものでした。3枚の組作品でありましたが、3枚あることで、光と色彩がより強調された作品となっていました。

特選の堀千晃さんの《私のお父さん》は柔らかな光の中で、日常的な風景でありながらも、映画の一場面を見ているような印象深い作品でした。ただ同じテーマの別の組作品もあり、どちらをとるか審査員で選択させていただきました。

奨励賞の伊海田卓男さんの《夕刻の山並み》は色彩の美しい山岳写真でした。今回はこのような状況の中で外出がしにくいことが影響しているのか、山岳写真や動植物を撮影されたネイチャー系写真的応募が少なかったのですが、その中で秀逸の作品でした。やまもとみえこさんの《冬の川辺を歩いて》は伊海田さんの作品とは対照的なモノクロの作品で、しかも出品数の少なくなったパライタによる作品でした。川辺の風景を異なる視点で捉えており、

組写真として完成された形となっていました。

35歳以下の方を対象とした美術奨学会記念賞のQen hazukiさんの《かたちとは》は葉を造形的に捉えたもので、カメラレンズの持つ特性を生かしたものでした。人の持つ視覚とは異なった画面を作り出しており、ドイツの写真家であるアルベルト・レンガー＝パッチュの作品を想起させました。坂東正沙子さんの《それから》は出品の少なくなった人物写真で、しかもヌードの表現でした。中性的なモデルの方を捉えており、早い段階で審査員の目を引いておりました。ジェンダーに対する議論が多く取り上げられる昨今、ヌード表現に対する考え方も従来よりも変化していますが、その中にあってオリジナリティのある表現に挑戦していました。

かながわ賞の三村信昭さんの《Dreams》はグラフィックデザイナーの木村恒久氏の作品を彷彿する、丁寧に制作された夢のある作品でした。牛木実さんの《ネコババ》も早くから審査員一同の注目が集まった作品で、合成等の加工はされていないにもかかわらず、ウイットに富んだ作品でした。

携帯電話にカメラ機能が装着されて以来、メモ代わりに写真を撮ることが日常的になってきました。しかし一方で大手カメラメーカーが一眼レフの開発を中止するという報道があり、写真をめぐる環境が変化しています。しかし作品としての写真の評価は、カメラの機能の問題ではありません。それぞれの方の着眼的や独自性、クオリティが評価されるものです。今回制作の過程でしっかりと作業されている作品が目立つ一方で、逆にドキュメンタリー的な要素のある作品が少なく感じました。パンデミックの中の、今の時代しか撮れないというテーマもあります。ぜひ来年は外の世界にも目を向けた作品が多くなることを期待いたします。



大賞

Sustainable Yokohama
nao.

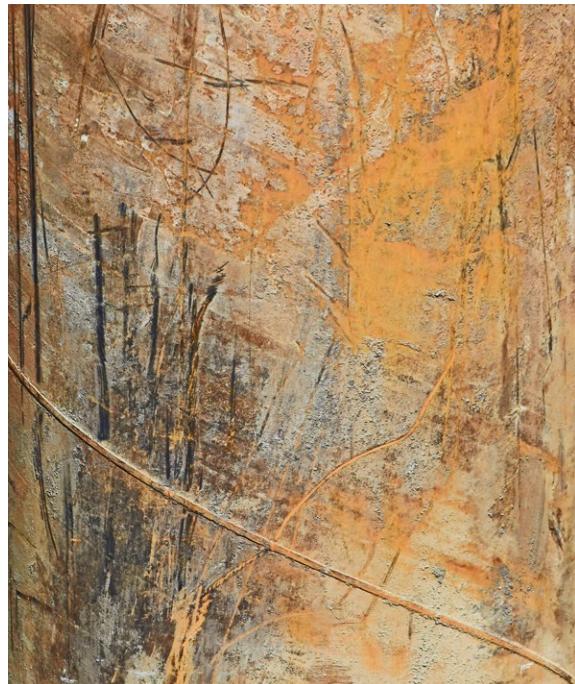
[略歴]

1978年 東京生まれ
1997年 私立トキワ松学園高校卒業
2017年 フリーランスとして活動開始

[受賞歴]

横浜市西区フォトコンテスト 西区民児協賛賞
大人の家族写真 きずな賞
他 みなとみらい線デジタルサイネージにて作品展示（横浜観光協会主催）

写真



準大賞

钢管壁景象

伊部 慶一

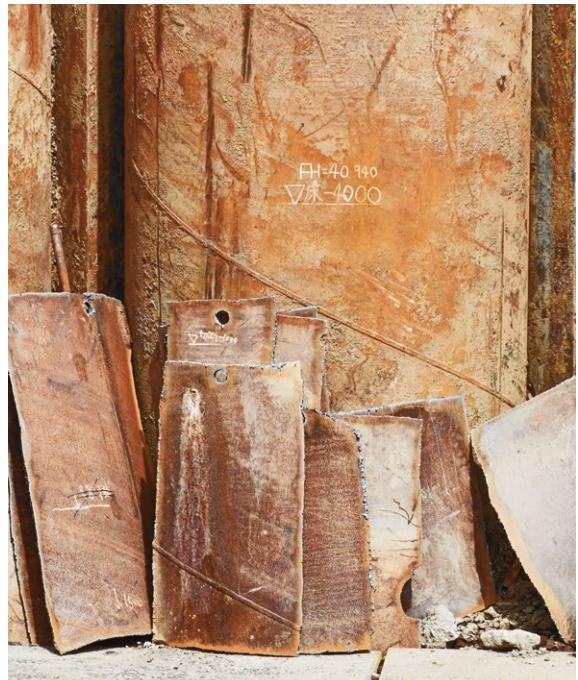
[略歴]

1938年1月生まれ

2013年まで約15年間山岳写真を撮る

2015年癌術後リハビリを兼ね近くの境川で

自然を撮影現在に至る





特選

私のお父さん
堀 千晃

写真

奨励賞

夕刻の山並み
伊海田 卓男



奨励賞

冬の川辺を歩いて
やまもとみえこ



かながわ賞

Dreams

三村 信昭



かながわ賞

ネコババ

牛木 実

写真



美術奨学会記念賞

かたちとは
Qen hazuki



美術奨学会記念賞

それから
坂東 正沙子

人から人へ情報を伝えて76年
これからも人の心に残る製品を創ります。



UV印刷機導入いたしました

画集・美術展図録を制作から印刷・製本・納品まで
一貫した体制で承ります。お気軽にお問い合わせ下さい。

株式会社 気生堂印刷所

<http://www.kiseido.jp>

〒143-0015 東京都大田区大森西4丁目6番13号

Tel.03-3766-1711 Fax.03-3766-1976

e-mail: print@kiseido.jp

The 57th Kanagawa Art Exhibition 2022
第57回 神奈川県美術展

発行：神奈川県美術展委員会
神奈川県民ホール内
〒231-0023 横浜市中区山下町3-1
TEL. 045-662-5901(代)
写真撮影：秋葉雅士
印刷：株式会社気生堂印刷所
発行：2022年9月7日



THE 57TH
KANAGAWA ART EXHIBITION
2022